

い〜にゃんワクワク子育てサロン

戸谷ひとみさん（寺沢）

サロンを立ち上げた思いは？

4年前から子育てママ向けの講座やイベントを数回開催しています。その活動を通して、子育てして行きて詰まりそうになつたときに、それを少しほぐせる場が必要なのではないかと思つていました。子育てママと話しているうちに、場所だけ借りて、何をするかは自由で出入りも自由、そんな集いをやってみようかということになり「い〜にゃんワクワク子育てサロン」をつくることになりました。

お母さんって、どうしても「自分のことは差し置いても子どものこと」になるので、私自身、とてもつらい時期がありました。

「お母さんも自分のことを



熱心に話される戸谷さん

もつと大事にして良いんだよ」「自分の時間を大事に」と、今はよく言われているんですけど、お母さんだから我慢しなきゃという気持ちの方がまだ多いのかな。自分のことが後回しになつてるんですよ。

子どもを置いて自分が楽しむことも時には必要で、そうやって自分が満たされてリラックスできれば、笑顔で子どもたちとも接することができるという良いこともあるんです。

経験者だから「そういうことが大事なんだよ」と伝えたい。

どんなコンセプトで活動を？

子育てママと子どもたちが交わる場を提供するだけで、何も難しいことはしません。ただ

場所を借りるだけです。親子だけだと、どうしても行き詰まる場所もあり、他の人が一緒にいるだけで心にもゆとりがでます。子ども同士で遊んでいる、そこに他のお母さんが関わっている。自分だけじゃない。気持ちが楽だし自分も楽しめます。

町内のさまざまな場所で広く交流できる場を提供していきたいらと思つています。「お母さんたちが開放感を感じられる」そんな場を提供したいなと思つています。



今後のサロンの行方をいつも考えています

いつもは閑静な地域に、小さな子どもたちの歓声が響いていました。この日「い〜にゃんワクワク子育てサロン」が開催されていたのは旧小田小学校の体育館。集まった子どもたちは、ボール遊びやかけっこ、カルタ遊びなどをいっぱい楽しんでいました。運動しながらのマスクは少々辛いのではと思いましたが、息を切らして話し込んでいるお母さんたちの目はイキイキと輝いていました。

編集後記

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、本年1月に町長選挙が行われ、新たな町長が誕生した。

本定例会においては、新町長の施政方針を質す一般質問に5人が立った。主に、公約への考え方、どのように実現していくのか、前町長が取り組んだ事業をどのように引き継ぐのかというものであった。

我が国は、政府の失政で経済成長の歩みを止めて二十有余年になる。国家の繁栄を経験したことの無い若者が社会人となっている。

市町村はもとより、県もひび迫した予算の中で、何とか住民に幸せを感じてもらえる政治をと苦心^{さんたん}惨憺^{さんたん}しているが、報われているとは言い難い。「東京一極集中の打破」を掲げながら、インフラ投資は南関東に集中している現状がある。

新町長や議会は多くの仲間を作り、固く手を取り合つて、政府の誤りに対し「それは誤りである」と声を上げなくてはならないと感じる今日この頃である。

議会広報編集委員 門 眞一郎

明日を拓く

今月の表紙写真

